



# 心に残る先人の教え

～指導者研修会資料より～

三浦捷也

(三浦歯科医院 院長)

子どもは小さな大人ではない。小学生にはその心とからだに合ったスポーツの仕方があるはずだ。実際に子どもたちと触れ、スポーツ活動の基礎になる小学生のスポーツのあり方について考えてみたい。そんな思いから小学生の野球と関わり40年になった。私は学生時代には、いささかの野球経験があったとはいえ、「スポーツの指導」、「教育や子育て」に関する知識もなく、人様の大切な子どもをお預かりし、指導するうえでの不安を解消するには、常に指導者の方々の言動や指導方法に関心を持ち続けることと、書籍を通して学ぶ以外になかった。また、折に触れ、指導者研修会を開き、コーチの方々と基本的な指導理念、具体的な指導方法などについてお互いが共有することに努めてきた。

新しい年のスタートにあたって、少しでも皆様の参考にして頂ければとの思いから、指導者研修会資料より、特に「心に残った教え」の一節を転載させて頂くことにした。

『人を奮い立たせるリーダーの力』(マガジンハウス編)

ラグビー元日本代表監督 平尾 誠二

## ◎世の中は公平でも公正でもない

世の中はもともと理不尽なものとして作られている。だからといって、理不尽を体験することは無駄ではない。それどころか確実に人間を鍛えてくれるし、強くもしてくれる。もし自分が理不尽な状況に置かれているのなら、へこたれてはいけない。その壁を乗り越えたとき、人は必ず成長する。

◎「平尾ジャパン」という言い方は好きじゃない。たかが監督やんか。

組織とは、決して監督やコーチがつくるものではない。得てしてトップダウンでつくられた組織は一見強固に見えても、選手のやる気が伴っていないことが多々あり、案外脆いものだ。組織が選手をつくるものではない。選手が組織を動かし、作り出していった結果、変化に対応可能で柔軟な組織が生まれるのだ。

◎苦難を乗り越える遺伝子のスイッチは誰にもある。

人間は氷河期や飢餓などの苦難を乗り越えて生き残ってきた。であれば、現代を生きる私たちにも、そういう強い遺伝子は受け継がれているはずだ。ただ、今の日本の若者たちはその遺伝子のスイッチを切られているように感じる。その遺伝子を働かせるためには、脳幹への刺激が必要だ。私はずっと身体を動かすことで脳幹を刺激してきた人間なので、そのためにはスポーツが一番いいと考えている。

『心の野球』(幻冬舎)

元巨人軍 桑田 真澄

●単に野球がうまいから、エリートというわけではない。野球もうまくて、「教養」もある。自分を律する強い心と、チームを一つにまとめる能力を備える。そんな人間力のある人物こそ、真の野球エリートである。

●日本の指導者にどうしても、伝えたいことがある。指導者は「選手に教える」のではなく、「選

手とともに考え、ともに歩む」存在だ。「金の卵」は大事に扱わないと、殻が簡単に割れてしまう。今こそ、指導者のレベルを底上げしなければ、日本野球の更なる発展はない。

●野球は一人ではできない。みんなでやるスポーツだから、チームメイトと心をつにしたい。だからこそ、数字や結果と同じくらい、目に見えない心を大切にする。それが僕がたどり着いた「心の野球」。

『逆境を生き抜く力』(WAVE出版)

沖縄興南高校 野球部監督 我喜屋 優

たとえ甲子園で優勝できたとしても、それは一瞬の輝きでしかない。それよりも、部活動を通して何を学んだか、学んだことを次のステージでどう活かせるかのほうが、よほど大事なのだ。3年間で花が咲かなくとも、これから長くつづく人生の花をいつか咲かせればいい。野球部は、そのための根っこづくりをするための場なのだから。

『こどもたちへ～夜回り先生からのメッセージ～』

水谷 修 (サンクチュアリ出版)

純粋で、心がきれいな子ほど心を病みます。さまざまな問題を抱えている子に共通しているのは、みんなものすごく優しいということです。でも自信がない。自己肯定感を持ってない。それは、家や学校で「おまえはできない」「ダメな子だ」「おまえなんて産まなければよかった」と徹底的に痛めつけられているからです。

子どもはみんな花の種です。時期を待てばかならず花を咲かせます。子どもの背中をそっと押すか、見守ることだけなんです。

親たちはことばを使いすぎます。哀しいときは一緒に哀しい顔をして、うれしいときは一緒にうれしい顔をする。子どもに寄り添うという

のはそういうことです。決して難しいことじゃありません。

『心が変われば 山下智茂・松井秀喜を創った男』

松下 茂典 (朝日新聞社出版)

### ◎山下智茂・元星稜高校監督の教え

心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。

### ◎山下監督が選手に伝えた格言

- ・失意泰然…逆境の時も落胆してはいけない
- ・得意淡然…得意な時も淡々と
- ・天才は有限 努力は無限
- ・朝は希望に生き、昼は努力に生き、夜は感謝に眠る
- ・能力の差は小さい 努力の差は大きい
- ・流汗悟道…苦しみ、悲しみは汗を流せば忘れる。本気で一生懸命やれば道は開ける
- ・青春とは自己の可能性に挑戦する姿である

『助け合う魂を心に吹き込む』(公人の友社)

元秋田市立山王中学校長 船越 準蔵

助け合って生きる「人間性」の魂を、人の心に吹き込む時期は、主に、幼児、小学生、中学生の時期です。この時期の子を育てる親や、教師や、大人たちは、お手本を示して、助け合って生きることの大切さを、身にも心にもしみ込むほどに教え込まなければなりません。ほかに教えたいことがどんなにたくさんあったとしても、まず、「誰にでも親切の手を伸べて伸よく助け合うこと」を教えなければなりません。勉強や、スポーツや、趣味や、遊びの中でも、助け合って生きる心を育てることを手抜きしてはなりません。繰り返し、繰り返し教え込めば、助け合う心が育ちます。百歳になっても変わらぬ「人間性」が身につきます。